発 行 元:日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会

広報委員会:菊地春夫·根本佳奈·荒井隆浩

井堂愛子・濱出昌子・山田幸恵・中島鈴美

ホームページ:http://caring-jp.com

2020年パラリンピック開催間近!障害者スポーツ活動報告

バリアフリービーチというリハビリテーション (神奈川県二宮)

株式会社モノ・ウェルビーイング代表/ NPO 法人湘南バリアフリーツアーセンター理事長 /鎌倉バリアフリービーチ実行委員会副委員長/東京バリアフリービーチ実行委員 - 榊原 正博



バリアフリービーチは、障害のある方にとって眺めるだけだった海を、 健常者と同じように楽しんで欲しいという思いから、5年前、鎌倉材木座 海岸で始めました。

今では、東京葛西海浜公園、お台場海浜公園、茅ヶ崎サザンビーチ、千 葉検見川浜、石巻白浜海岸、三原須崎海岸と広がっています。

他にもユニバーサルビーチとして、大洗、須磨など、障害者が海水浴出来る場所はどんどん増えていっています。その中で、バリアフリービーチとユニバーサルビーチには、2つの種類があると思っています。1つは、障害があるが環境が整っていれば、いつでもいける人むけの環境としてのもの、もう一つは海に来たことがない、海に来てたけど来るのを諦めてし

まった人に、海に来る方法や楽しむ方法を教えるリハビリテーションとしてのもの。

私たちの活動であるバリアフリービーチはリハビリテーションを目的としています。バリアフリーとリハビリテーションは同じものであると考えています。「できない」と思っていたことを「できる」と思ってもらうこと。これは、当事者だけでなく、家族や支援者、周囲の一般の人、その他の人、全てに対してです。気管切開をしているから、胃瘻をしているから、いろいろ不安があります。こういう医療的不安は一般人では解決できません。そのため、バリアフリービーチは医師や看護師、セラピストなどの医療関係のボランティアを意図的に多く集めます。それにより、「人」という環境が整います。ICF的に言えば、促進因子ですね。また、一般のボランティアは障害のある人に関わったことがないので、関わり方に不安があります。その不安も医療関係のボランティアが関わり方を教えることで、安心して関われるようになります。そうなると、当事者、家族、ボランティアが安心して楽しく海水浴で遊べるようになります。

そんな当事者や家族、ボランティアが楽しく遊んでいるのを見た周囲の人は、障害があっても海水浴を楽しめることを知り、さらに周囲の人に伝えていきます。海の家も車いすの人も海水浴にくるなら、楽しんで欲しいとおもてなしができるようにバリアフリーになっていきます。

東京バリアフリービーチでは、長谷川幹先生が実行委員長として活動していますが、今年は当事者を 10 名、ボランティアを 30 名集めました。

鎌倉はここ2年台風で中止となってしまいましたが、毎年当事者を60名、ボランティアを200名近く集めています。 基本的に、ひとりの当事者に3名以上のボランティアが関われるようにという計算です。そのうちの1名は、必ず医療・ 障害支援・介護関係者にしています。

また、当事者の年齢や障害の内容に合わせてグループ分けをしています。就学前のお子さんの時はベテラン看護師さんにご両親を支援する形で、成長したお子さんやおとなの場合は、若くて元気なセラピストと年配の一般ボランティア、高齢の方にはベテランセラピストと若い一般ボランティアなど。

海用車いすのモビチェアや砂浜に敷く車いすが通れるマットであるモビマットという道具はありますが、これは来るきっかけでしかありませんが、バリアフリーな場所であるシンボルになります。

本質は「人」という環境、そして「人の態度」という環境が、生活機能の「参加・活動」に対する促進因子になることを、バリアフリービーチは示してくれます。

この活動で最も紹介したいのは、全ての人が笑顔になれる。これにつきます。どんどん広がるバリアフリービーチですが、これこそが地域に生まれる夏を楽しむケアリング・コミュニティだと思います。



ケアコミ学会 支部活動報告

ポラリスの光 (北海道帯広)

NPO 法人みんなのポラリス代表理事

水口迅



NPO 法人みんなのポラリスは、北海道の帯広市を活動拠点として、身体 障害者の相互支援を目的としたさまざまな活動をしています。

みんなのポラリスの前身「ポラリス若年性脳梗塞の会」が設立されたの は 2016 年のことです。名前のとおり、当初のポラリスは若年性脳梗塞の 患者会として発足しました。ポラリスを立ち上げたのは、脳梗塞当事者の 水口と、作業療法士の吉田美穂(現みんなのポラリス事務局長)の2人です。 患者会の運営などしたことのない 2 人で発足当初は暗中模索、試行錯誤を 繰り返しました。

2017年、日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会の全国大会が帯 広で開催されました。この大会に水口と吉田が実行委員として深く関わっ たことが、ポラリスにとって一つの契機となりました。

大会に向けての1年間の準備期間中、仲間の輪が大きく広がったのです。

定期開催(隔月)していた「ポラリスカフェ」には常に20名以上の当事者、家族、医療職、福祉職などの人々が集ま るようになりました。

「誰でも参加できる」。それがポラリスカフェのコンセプトだったので、脳卒中当事者にとどまらず、脳性麻痺、筋ジス トロフィー、脊髄損傷、がん当事者など、さまざまな障害者が集まる「場」になりました。

こうしてポラリスの活動が「若年性脳梗塞当事者の相互支援」という枠組みでは収まらなくなってきたので、2017年 に「障害者の相互支援」を軸に据えた NPO 法人みんなのポラリスを設立しました。

現在のポラリスの活動は、隔月開催のカフェ、スポーツ、アートなどのイベント開催、ALS、がんなどの患者会とのコ ラボイベントなどです。

2019年現在、一般会員と賛助会員合わせて約40名がポラリスの活動を支えてくれています。2018年にはボッチャの チーム「ポラリスとかち」を立ち上げました。また、札幌でもポラリスカフェを定期開催するようになりました。

NPO 法人として歩き出して 1 年が経ったポラリスの今後の課題は以下になります。

・ 就労の場の創出

帯広のような地方都市では障害者の就労先があまりありません。ポラリスで収益事業(現在はしていない)を立ち上げ、 障害者の就労の場を創り出せないか、可能性を模索しています。

・ 活動の継続へ向けて

構成員の高齢化による組織の疲弊というのは、日本のさまざまなところで見られます。現在のポラリスは 40 代、50 代 が活動の中心となっていますが、将来的に円滑な世代交代ができるように20代、30代の仲間を積極的に増やしてい ます。

障害者に必要なのは外に出る「きっかけ」だと思っています。外に出る ことは社会参加につながるからです。ポラリスがさまざまなイベントを企 画するのは、そのどれか一つが障害者にとって「きっかけ」になってくれ れば、という思いからです。

ポラリスが作る「場」では、健常者と障害者、患者と医療者、性別、年齢、 そういったバリアは一切ありません。今後もさまざまな活動を通じて、こ うしたコミュニティを広げていけたらと考えています。

NPO 法人みんなのポラリスの活動については Facebook ページ「みんな のポラリス」で見られます。

問い合わせなどは y.noukousoku@gmail.com へメールでお願いします。

○回全国大会のお知らせ

〇日 時:2020年6月12日(金)・6月13日(土)

○会場:アストホール / 三重県津市羽所町 700 番地

○交 通:近鉄名古屋線 津 徒歩 1分

○大会長: NPO 法人日本高次脳機能障害友の会 理事長 古謝 由美







神奈川県湘南二宮大会を振り返って



■ 大会長 宮地 秀行

2019年5月31日(金)、6月1日(土)の2日間に渡り、神奈川県中郡の二宮町で第9回日本脳損傷者ケアリングコミュニティ学会が開催されました。一日目は平日であったにも関わらず、遠方からも多くの方にご参加頂きました。準備不足が否めず、大会当日まで皆様には大変ご心配、ご迷惑をお掛けしましたが、ご参加頂いた皆さまのお蔭で、大変温かな、そして有意義なケアリングコミュニティを創出した2日間となりました。先ずは関わって頂いた全ての皆さまに感謝申し上げます。

この大会の大会長を務めるに当たっては、今年がパラリンピックの前年で障害者スポーツの機運が更に高まることが予想されたことや、私が本学会の文化スポーツ委員会のまとめ役にもなっていたことから、大会のテーマはスポーツを含む「余暇」としました。そして、大会スローガンに掲げた「湘南二宮で自然に親しむ」は、実行委員会で議論を進める中で、湘南の海や山でアウトドアアクティビティを楽しむ人たちの存在を知り、「湘南」のルーツである二宮から、そうした活動を皆さんに紹介したかったことに加え、穏やかな二宮の地に集る仲間が二日間の大会を通じて自然と親しくなって欲しいという実行委員の想いを掛けました。

「スポーツ」「文化・芸術」「旅」そして「自然と親しむ」をテーマにしたメイン会場でのプログラムは、それぞれ具体的な活動に参加している当事者や支援者がまさしく同じテーブルにつき、参加を促すきっかけづくり、関わる人や環境・地域の変化、生活の広がりと豊かな人生の再構築、といったケアコミ学会ならではの議論を、共感、驚き、感動とともに深めることができたと感じます。ポスターセッションでも様々な余暇活動へのチャレンジをまとめた当事者の皆さんの発表が多く、それぞれの演題で時間が足りないほどの活発な討論が行われていたのが印象的でした。懇親会も大いに盛り上がり、二日間を通じてスローガン通り皆が自然と親しく関係性を築けた大

神奈川で2度目となる今大会は、湘南鎌倉エリアや県西エリアで開催したいとの想いがあって会場探しを始めたのですが、想定外のアクシデントにも見舞われ、二宮ラディアンが会場に決まったのは前年12月に入ってからのことでした!その後、これも想定外の少人数実行委員で準備を進め、何とか当日にこぎ着けた大会でしたが、地元二宮での実行委員会開催は一度も実現できず、現地の方々を巻き込めなかったことが心残りです。それでも少しケアリングコミュニティの種を湘南地域に蒔くことができたかなと感じています。来年度の三重大会でそのレガシーについて報告できるよう、この大会で築いた地域とのつながりを今後も育んでいきたいと思います。



会になった気がしています。

■ 副大会長 長坂 祐司

神奈川県相模湾・湘南の二宮町にある"生涯学習センター ラディアン"をメイン会場に脳損傷の私たちと様々なサポーターがふれあい、懇親をするイベントを開催しました。テーマは「湘南二宮で自然と親しむ!~余暇活動を通じた社会参加とケアリングコミュニティ」です。第9回神奈川大会は、開催地を県の中でも鎌倉市より西部・西湘でと想いを進める中に縁があり"サーフ西湘の都・二宮"で開催しました。開催地域皆様の暖かい

サポートに感謝致します。中郡二宮町を拠点としましたので、西伊豆・信州等で活動をする皆様と再会・ふれあいのある大会となったのでしょう。 大会にかかわり得た慶びは、地域等を超えた「仲間とのふれあい」でした。 地理的な拡がりを感じ、そして様々な仕事に携わる人たちとの懇親は、脳 損傷者である私に"地域社会と繋がりなさいね!"と強く優しい後押しを して頂く想いでした。大会の終始に、励みになるメッセージがたくさんあ りました。手短ではありますけれど、大会に関係をされた皆様へ"敬意と 謝意"を表する言葉を持ちまして報告とさせて頂きます。ありがとうござ いました。



研修会等の情報(2019年度)



コーチング研修会

日 時:10/5(土)11/2(土)12/7(土)

14:30~18:30

場 所:東京医科歯科大学1号館東

歯学研究棟7階会議室

参加費: 2,500 円 (1 回)

申 込:学会ホームページより申込用

紙をダウンロードの上、事務

局に FAX してください。

*詳細は日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会ホームページに掲載中。



高次脳機能障害と囲碁 & 心の唄コンサート

日 時:12/1(日)10:30~16:20

プログラム:第1部「楽しい囲碁」

第2部「高次脳フォーラム」 第3部「心の唄コンサート」

場 所:大田文化の森

(東京都大田区中央2-10-1)

参加費:無料

【申込・問合せ】

E-mail kurishiro@live.jp Tel 080-5450-0052(栗城)

第6回キッズネットワーク宿泊イベント IN 愛知

テーマ「未来のために」―今できることを考えよう―

主 催;脳外傷友の会みずほキッズプラスの会

日 時;2019年11月2日(土)、3日(日)*3日(日)は宿泊者の

4

場所;愛知県美浜少年自然の家 (http//sizennoie-mihama.jp/)

参加者;高次脳機能障害を持つ子どもとその家族、医療専門職、

医療専門職、看護師、保育士、学生

*2日(土)研修会、3日(日)宿泊者のみ



全国大会の資料として、

「高次脳機能障害他職種連携支援・事例 検討会・制度活用の手引き」を発行します。 入手希望の方はご連絡ください。

NPO 法人高次脳機能障害友の会

学会理事長 長谷川 幹 新書出版



『リハビリ 生きる力を引き出す』(岩波新書)を発刊して 長谷川 幹

40年近く世田谷区で医療機関を拠点にして地域活動したことを基盤にして書きました。 内容として、高次脳機能障害、骨折、神経難病、生活不活発による筋力低下などの疾患になっ た高齢者、障害のある人が、一時的には希望を見失っても、周囲の支援により、「自分の秘 められた力に自分自身が気づき」新たな生活を切り開くことが少なくありません。

中には、さらに苦闘した経験を活かして支援の「受け手」でありながら「支え手」になる場合があることがわかり、それは、障害のある人、家族、医療保健福祉の関係者などとともに行う日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会につながっています。

。 編集後記*息*。

10月も半ばに入り、「文化、スポーツの秋」、そして、来年はオリンピック、パラリンピックが東京で開催されます。ということで、第6号は、学会関連団体のスポーツ、研修会を取り上げました。バリアフリービーチは、モビマットやモビチェアを装備し、海の楽しさが体験できるよう地方へも出向いています。北海道帯広では、大会後に「みんなのポラリス」と名称を変えて、広く障害のある方を対象に活動を展開しています。

この数年、障害のある人、ない人の区別なく、みんなが楽しめる活動を良く聞くようになりました。皆さんの地域ではどのような活動が行われているでしょうか。どの活動も、まず、参加、体験することが大切なように思います。 この機会に参加してみてはいかがでしょうか。

次号は、2020年6月三重県津市で行われる全国大会の紹介を予定しています。毎年、その地域の力に刺激を受ける全国大会で、新たな感動を皆さんと共有できればと思います。
- 中島 鈴美 -